

水道・小規模水供給の現状・改善事例

	100-2000人規模	10-100人規模	数-10人規模
水源の改善	大規模な水道と統合した場合、大規模な水道と接続した場合もある。	公設飲料水供給施設の設置、生活用水支援事業（水道局に事務委任）（静岡県）	浅井戸からポンプアップ（静岡県）、独自の井戸開発など
水源の改善	年に数回濁度が高くなる地区では地元業者が独自の緊急遮断弁を設置したことで維持管理が容易になった。（静岡県）	年に数回水源が落ち葉等で詰まっていた施設では、水源にウォータースクリーンを導入したところ流量の低下がなくなった。（奈良県、静岡県など）	簡易の配管を地表面、空中をわたすことにより、簡便な配水を行っている（各地）
処理方法の改善	緩速ろ過処理を行っていたが、かきとり作業が難しかったため、上向式ろ過に変更を行った。基本的に無人施設で地元の水道担当者数名で維持管理ができ、1年に1回程度専門業者が清掃、点検を行う（岐阜県）	非常用の膜処理装置、物置などにより安価な処理システムを導入した。遠隔監視により異常があれば職員の携帯にアラームが入る（兵庫県など）	浅井戸からポンプアップし、簡易ろ過装置でろ過、塩素を加え供給している。補助を活用し数軒で運営（静岡県など）
処理方法の改善	上向式ろ過のタンクを導入し基本的に無人施設で運転。水源も良かったため2年間ほど特に維持管理を行っていない（奈良県）	サイフォン式の自動処理装置の導入によりメンテナンスが容易になった（兵庫県、静岡県）	近隣に地下水が確保できる場合は、簡便なるろ過と消毒等のリースにより各戸給水を行うことも有利（JWRC事例）
水源と処理方法の改善	水源が枯渇してきたため、ふもとの地下水を掘り、自動の凝集沈殿装置を設置して給水。以前の水源では濁水となった時期も水が供給できた。	近隣に地下水が確保できる場合は、簡便なるろ過と消毒等のリースにより各戸給水を行うことも有利（JWRC事例）	非常時には運搬給水を実施（静岡県、宮崎県、沖縄県）
消毒	村の職員が消毒剤の補給を行っているが、頻度が高く村のすべての施設を回っていると施設改善の事務作業等を行う時間が取れない。（奈良県）	電気がない施設での消毒を確保するため、錠剤型の塩素を利用しているが2日に1度錠剤の補給に行く必要がある。（奈良県）	実際には塩素を補充していない事例も多く、各戸の入り口で浄水器型の膜ろ過やUVLEDによる消毒を実施することも有効か。
行政からの支援運営	住民が高齢化し、維持管理が困難となったため、飲料水供給施設をソフト統合し簡易水道として、村が維持管理を担当することとなった。（奈良県）	公設飲料水供給施設の設置、生活用水支援事業（水道局に事務委任）	県によるモデル事業・技術支援（奈良県） 生活用水支援事業（水道局に事務委任）（静岡県） 水道事業OBによる技術支援・補助制度の活用（衛生部局）（静岡市）